

はじめに

『“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島—よみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶—』が平成28年4月に「日本遺産」（文化庁認定）に認定されました。

このパンフレットは、和田竜氏の小説『村上海賊の娘』の本屋大賞受賞（2014年）を契機として、一躍全国的ブームとなった村上海賊の魅力を、さらに地域へ、全国へ、そして世界へと発信していくために、作成をいたしました。村上海賊のストーリーを語る上で欠かすことができない構成文化財42件のうち、「能島村上家伝来資料群」（今治市村上水軍博物館保管）および「因島村上家伝来資料群」（因島水軍城保管）をおもに紹介し、さらに来島村上家ゆかりの資料を所蔵者様の特別な許可を得て掲載をさせていただきました。村上海賊三家に伝わる至宝を一堂に紹介する初めてのパンフレット。村上海賊のストーリーを学び、そして活用・発信していくための素材として、ぜひご活用ください。

最後に、本パンフレットを作成するにあたり、各資料のご所蔵者様をはじめ多くの方々のご理解、ご協力を賜りました。深甚なる感謝と敬意を表しますとともに、今後ともなお一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年10月
村上海賊魅力発信推進協議会

Contents

◇はじめに	1
◇日本遺産とは	2
◇日本遺産に認定されたストーリーの概要	3
◇村上海賊三家	4
◇因島村上家の至宝	5
◇来島村上家の至宝	8
◇能島村上家の至宝	12
◇村上海賊三家の行く末	16

■本冊子は、日本遺産『“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島—よみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶—』の構成文化財紹介パンフレットです。

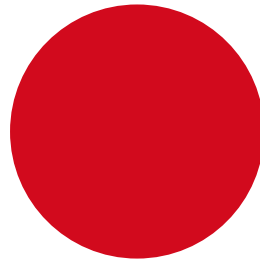
■本冊子の製作は、日本遺産魅力発信推進事業の一環で行っています。

■本文の執筆は田中謙・大上幹広（今治市村上水軍博物館学芸員）が担当し、今治市国際交流協会の翻訳協力を得ました。編集は村上海賊魅力発信推進協議会（事務局：今治市教育委員会文化振興課内）が行いました。

■掲載写真の無断転載はご遠慮ください。

■本冊子には、来島村上家伝来資料を掲載しています。同資料は日本遺産の構成文化財ではありませんが、村上海賊の歴史を語るうえで貴重な資料であるため、所蔵者様の許可を得て、特別に紹介しています。

日本遺産 Japan Heritage



JAPAN HERITAGE

日本遺産

いまぼり おのみち むらかみかいぞく にほんいさん
 今治市・尾道市にまたがる村上海賊のストーリーが「日本遺産」に認定されました。尾道市では前年の「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」に続いて2年連続。今治市は初の認定で、四国でも平成27年度に認定された「四国遍路」に次いで2例目になります（認定件数：H27年度18件、H28年度19件）。

日本遺産とは、文化庁が平成27年度から創設した制度で、地域に点在する有形・無形の文化財群を、一定のテーマやストーリーの中で総合的に把握しようとする取り組みです。認定されたストーリーを構成する村上海賊関連の文化財は42件。村上海賊の海城、ゆかりの神社仏閣、伝統行事、そして郷土料理など、その種類はさまざまです。

一定のテーマの中で総合的に把握するという点では世界文化遺産との共通点もありますが、世界遺産が文化財の保存や継承を目的とするのに対し、この日本遺産は、文化財群の整備・活用を行い、国内外に情報を発信することによって、地域の活性化を図るといえるものです。

日本遺産に認定されると、国の財政的な支援を得ながら、情報発信や人材育成、普及啓発、公開活用のための整備にかかる事業（日本遺産魅力発信推進事業）を進めることができます。この構成文化財パンフレット製作も本事業の一環で行いました。

.....
 The Agency for Cultural Affairs accepted the proposal for the Murakami *Kaizoku* entitled, "Geiyo Islands : The Stronghold of Japan's Greatest *KAIZOKU*—Memories of Murakami *KAIZOKU*—" in April 2016.

What is Japan Heritage?

The Agency for Cultural Affairs designates certain historical sites and cultural assets that tell a story of Japan's culture and past as a Japan Heritage. This Japan Heritage project aims to bring attention to and promote lesser known places. See the attached brochure in English about Japan Heritage, published by the Agency for Cultural Affairs.

.....

“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島

—よみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶—

Geiyo Islands : The Stronghold of Japan's Greatest KAIZOKU—Memories of Murakami KAIZOKU—

日本遺産に認定されたストーリーの概要

戦国時代、宣教師ルイス・フロイスをして“日本最大の海賊”と言わしめた「村上海賊」“Murakami KAIZOKU”。理不尽に船を襲い、金品を略奪する「海賊」（パイレーツ）とは対照的に、村上海賊は掟^{おきて}に従って航海の安全を保障し、瀬戸内海の交易・流通の秩序を支える海上活動を生業としました。その本拠地「芸予諸島」には、活動拠点として築いた「海城」群など、海賊たちの記憶が色濃く残っています。尾道・今治をつなぐ芸予諸島をゆけば、急流が渦巻くこの地の利を活かし、中世の瀬戸内海航路を支配した村上海賊の生きた姿を現代において体感できます。

Overview of the proposal

During the Warring States Period, Luis Frois, a missionary, called the Murakami *kaizoku* ‘The Greatest *kaizoku* in all of Japan’. In contrast with ‘Pirates’ who mercilessly steal money and valuables from ships, Murakami *kaizoku* guaranteed the safety of sailing, and maintained the order in the sea. The remains of sea castles, which they built as operating bases, can be seen in the Geiyo Islands. By exploring the Geiyo Island between Onomichi and Imabari, you can experience how the Murakami *kaizoku* used their available land and resources to their advantage, and took control of sea routes in Seto Inland Sea.



① 能島城跡 今治市 The ruins of Noshima Castle, Imabari City

14～16世紀に使用された村上海賊の代表的な海城。小さな島全体を城郭化している。

This seaside castle is a representative example of those built by the Murakami *kaizoku*. The castle occupied an entire small island, and was in operation from the 14th to 16th centuries.

② 大山祇神社 今治市 Oyamazumi Shrine, Imabari City

村上海賊たちが崇めた古来より由緒のある神社。海賊たちが詠んだ「連歌」が奉納されている。

Oyamazumi Shrine served as the location where the Murakami *kaizoku* worshipped the local deities. They offered traditional linked poems, called *renga*, to the kami of the shrine.



③ 棕浦の法楽おどり 尾道市 Hōraku Odori at Muku-no-ura, Onomichi City

村上海賊が、出陣の時は戦いの勝利と隊士の安全を祈り、帰陣の際は勝利を祝うとともに戦没者の追悼を行ったという。侍らしい軽装に太刀、跳ぶような動作などが特徴。

When the Murakami *kaizoku* went to war, they danced at Muku-no-ura to pray for the victory and safety of the warriors. When they returned from war, they also danced to celebrate the victory and to mourn the war dead. This dance, called the Hōraku Odori, is performed using a series of jumping steps, and the performers dress in samurai-costume and carry a sword. This traditional art of the Murakami *kaizoku* is still performed today.

④ 白滝山（五百羅漢像）尾道市 Mount Shirataki, Onomichi City

因島村上氏の村上吉充がこの山に観音堂を築き、江戸時代に石仏が置かれた。一体ずつ顔が異なる石仏は700体ほどあり、松林と岩石の自然に溶け込んで独特の雰囲気を出している。

Murakami Yoshimitsu, from the Innoshima-Murakami branch, built a temple on this mountain dedicated to the Bodhisattva Kannon. He also erected nearly 700 Buddhist stone statues whose faces are all different from each other. The statues seem to blend into the surrounding pine trees and natural stones, creating a unique atmosphere.



主な構成文化財



ストーリーの舞台：芸予諸島とその周辺



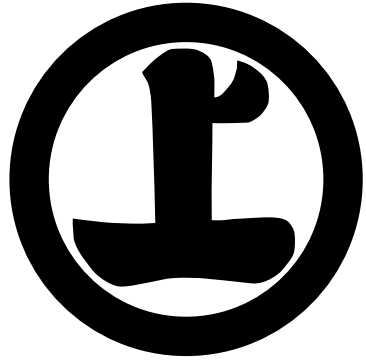
村上海賊三家

村上海賊は、14世紀中頃から瀬戸内海で活躍をした一族です。密集する島々やその間を流れる激しい潮流から、古来より航海の難所と言われる芸予諸島の、因島・能島・来島に本拠地をおいた三家からなり、連携と離反を繰り返しつつも、互いに同族意識を持っていました。宣教師ルイス・フロイスは、強大な力によって瀬戸内海航路を支配した村上海賊を「日本最大の海賊」と呼びました。

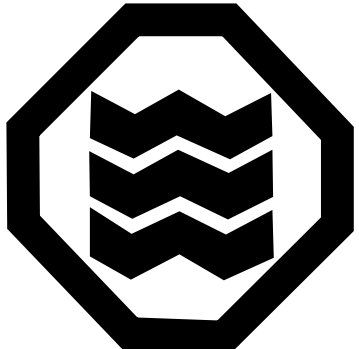
「海賊」と聞けば、皆さんは「Pirate」と訳されると思いますが、今回認定された日本遺産のストーリーでは、海賊はそのまま「KAIZOKU」と表現しています。

近年の研究で、戦国時代の海賊は、無作為に船を襲い、略奪を行う無法者、あるいは財宝を求めて大航海を行う集団ではなく、むしろ海の安全を守り、海上交通の秩序を保つために必要な人々であったことがわかってきました。戦時には、海の武士団として活躍をする一方で、平時は船の護衛や水先案内人、また商人や漁業者としても活動していました。「Navy」と訳されることもありますが、これも海賊の持つ多様な顔の一部でしかありません。パイレーツやヴァイキングとは違った日本独自の海の民であり、適切な英語訳が見当たらないのです。

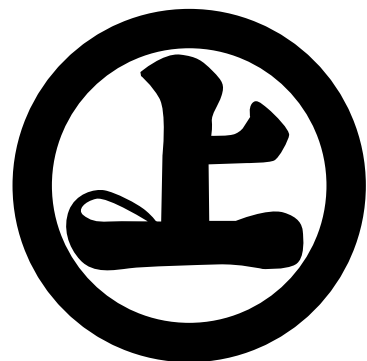
この日本遺産には、忍者「NINJA」や侍「SAMURAI」が世界でも通じるように、多様な顔をもつ日本独自の海の民として「KAIZOKU」という言葉を世界に発信していきたいという願いが込められています。



能島村上 Noshima Murakami kaizoku



来島村上 Kurushima Murakami kaizoku



因島村上 Innoshima Murakami kaizoku

村上海賊三家の家紋 Family crest of the Murakami kaizoku

The Murakami *kaizoku* were active during the Warring States Period (15th~16th centuries).

The word *kaizoku* is usually translated in English as “pirate,” however, the organizers of the exhibition have decided to leave the word *kaizoku* as it is. It is our hope that this term will become widely known and used as a common noun like *ninja* or *samurai*.

Recent research has found that the *kaizoku* of the Warring States Period were not seafaring raiders who attacked ships at random, nor were they groups of explorers who went searching for their treasure. The *kaizoku* are not synonymous with pirates of Vikings. Instead, *kaizoku* were considered guardians of the sea and maintained order in maritime traffic. In times of war, they served as a military force, but this was only a small part of their activities. They also served as escorts for other ships and provided knowledge about the current, and engaged in trading and fishing as well. Although they may be thought of in some ways like a navy, this perception is misleading too since only a fraction of the Murakami *kaizoku* engaged in such activity.

Kaizoku were “people of the sea” and particular to Japan. We would therefore like to suggest a more nuanced understanding of the term *kaizoku*.

因島村上海賊

因島村上氏は、向島、因島およびその周辺に本拠をおいた村上海賊です。史料上、初めて姿を現すのは応永34（1427）年。赤松氏討伐への出兵に対して、室町幕府の将軍、足利義持が村上備中入道吉資にあてた感状です。

15世紀中頃には、伊予国守護の河野氏に協力をし、佐礼城（今治市玉川町）を攻めた記録が残されていることから、因島村上氏は、河野氏とも結びつきながら成長をしました。また、備後国守護の山名時熙から遣明船の警固を命じられるなど、警固衆としても重要な役割を果たしました。

因島村上氏の中でもっとも有名な人物が村上新蔵人吉充です。吉充は厳島合戦（弘治元（1555）年）や第一次木津川口合戦（天正4（1576）年）などで、毛利氏の海上勢力として活躍しました。

The Innoshima Murakami branch was one of the families of the Murakami *kaizoku*, based in Mukaijima and Innoshima—part of the Geiyo Islands. The oldest documents that record their existence date back to 1427.

This is a record of their cooperation with the Kōno family who ruled Iyo (present-day Ehime Prefecture), in the mid-fifteenth century. The record suggests that the Innoshima Murakami branch had a strong influence throughout the Geiyo Islands and the Iyo region. The Innoshima Murakami also served Yamana Tokihiro, the lord of Bingo (present-day eastern Hiroshima Prefecture), and escorted trading ships to China under his orders.

The most famous family head of the Innoshima Murakami *kaizoku* was Murakami Yoshimitsu. Yoshimitsu served on the marine force of the Mōri clan, the head of who was the daimyō, or the feudal lord, of the Chūgoku region. He also played various important roles throughout the Seto Inland Sea.

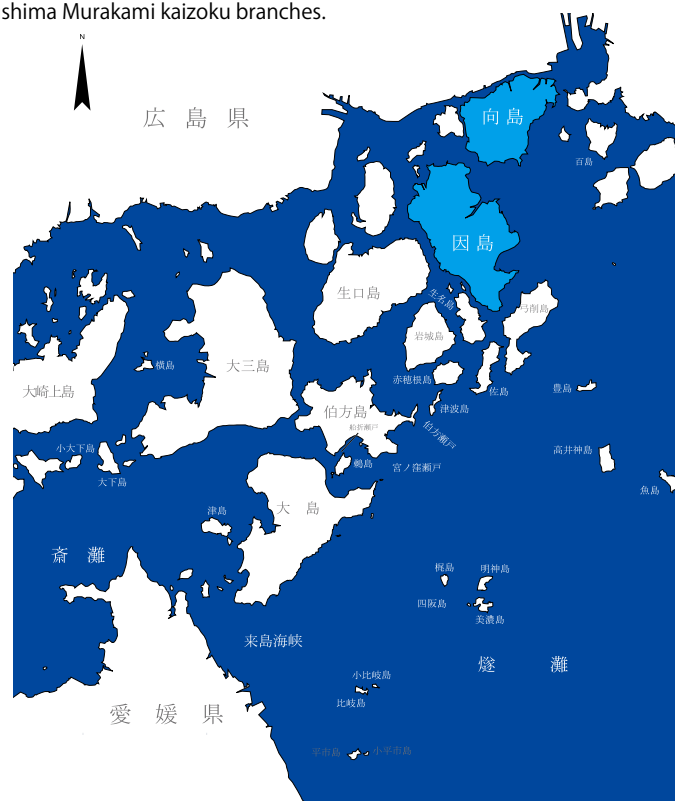


1. 村上吉充肖像画 Portrait of Murakami Yoshimitsu

因島村上海賊の全盛期の武将。因島や向島に本拠地を置き、中国地方の大名である毛利氏の海上軍事勢力として、能島・来島村上海賊とともに活躍した。

個人蔵・因島水軍城保管【尾道市重要文化財】

Murakami Yoshimitsu served as the head of the Innoshima Murakami *kaizoku* during its prime. Based in Innoshima and Mukaijima, they worked as a marine force subordinate to the Mōri Daimyō. They were active alongside the Noshima and Kurushima Murakami *kaizoku* branches.





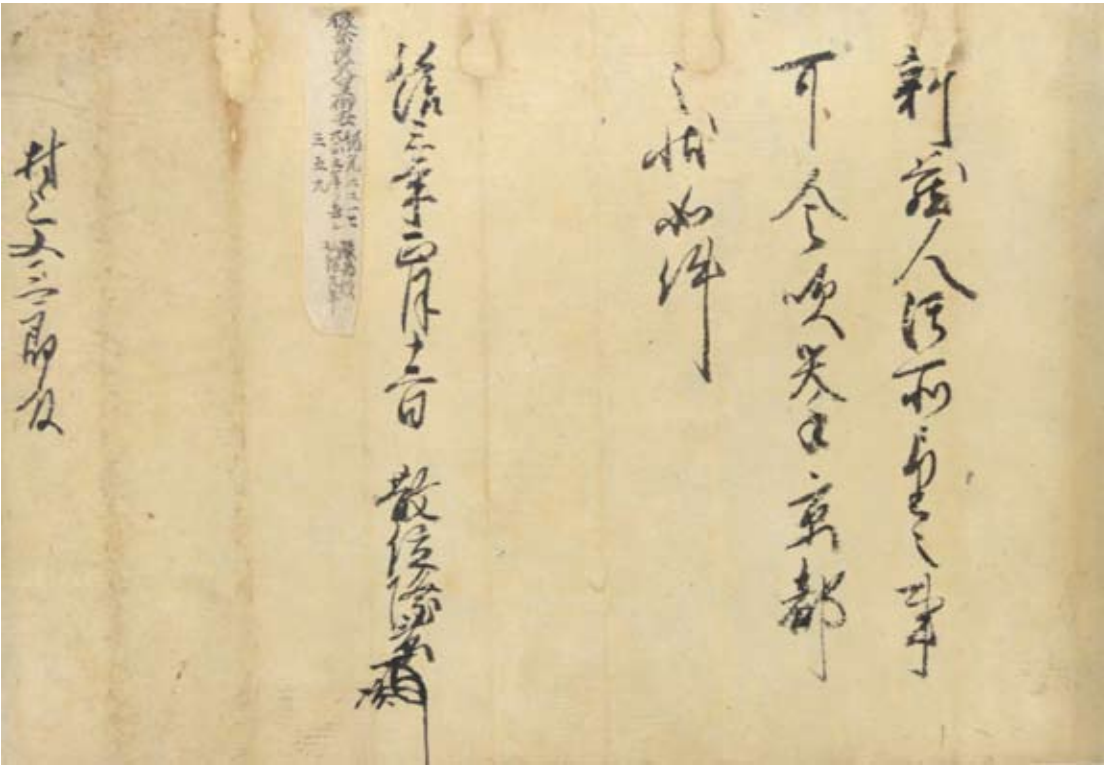
2. しろむらさきひいと だんおどしほらまき 白紫緋糸段緘腹巻

Suit of armor owned by the Innoshima Murakami kaizoku

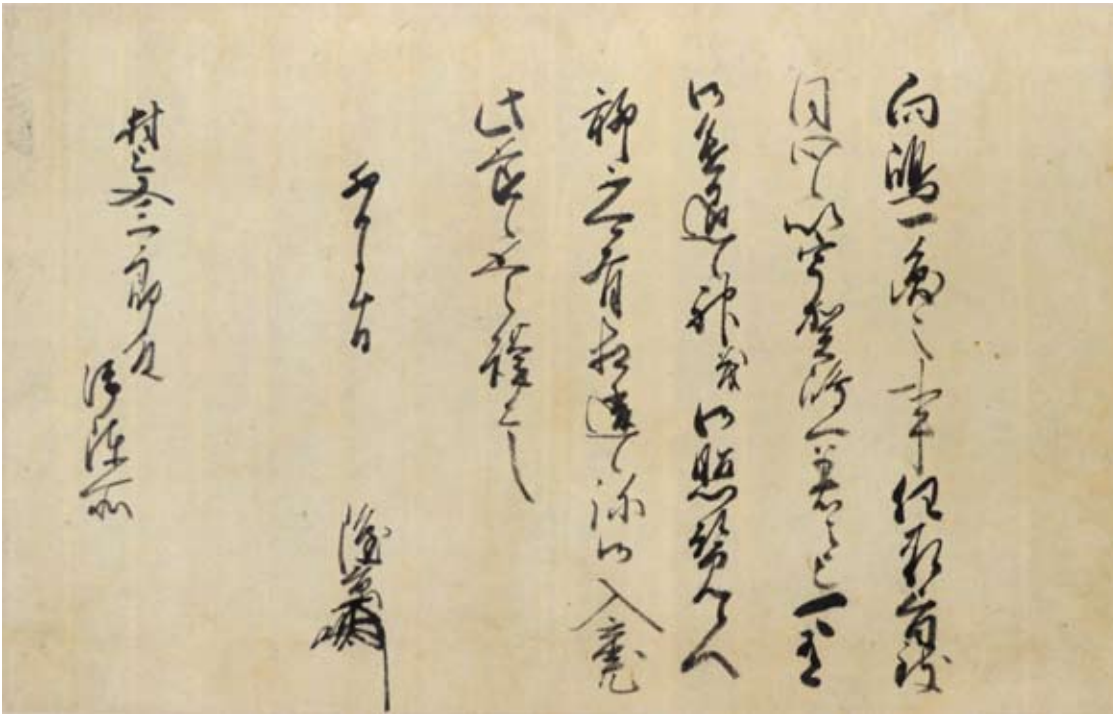
室町時代末期。村上吉充がその子吉祐の元服の際に、小早川隆景から贈られたと伝わる。白・紫・緋色の緒（紐）を通して作り上げた鎧で、背中を割って体をいれる「腹巻」というタイプである。

個人蔵・因島水軍城保管【広島県重要文化財】

This armor was given to Murakami Yoshimitsu by Kobayakawa Takakage, a daimyo from the Mōri family, to celebrate his son Yoshisuke's coming of age.



3. 小早川隆景書状 【因島村上家文書】 歴代証書一之巻所収
Letter from Kobayakawa Takakage



4. 小早川隆景書状 【因島村上家文書】 歴代証書一之巻所収
Letter from Kobayakawa Takakage

紙本墨書因島村上家文書 個人蔵・因島水軍城保管 【広島県重要文化財】

因島村上家文書は三巻からなり、同家の由緒を示す貴重な文書群である。15～16世紀の史料を中心に鎌倉時代以降の原本・写し計51通からなり、萩藩御船手組の村上太左衛門家に伝来し、第二次世界大戦後に旧因島市に寄託されたとされる。

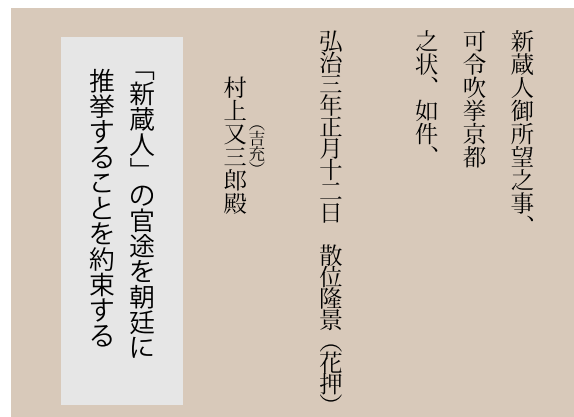
Written in the fifteenth and sixteenth centuries, these documents reveal the history of the Innoshima Murakami kaizoku.

3. 小早川隆景書状

【因島村上家文書】 歴代証書一之巻所収
Letter from Kobayakawa Takakage

弘治3（1557）年、小早川隆景は村上吉充に、「新蔵人」（しんくらんど）という称号を与えるように朝廷に推挙することにした。このことを約束した手紙。

In 1556, Kobayakawa Takakage recommended that the Imperial Court grant a particular title to Murakami Yoshimitsu.

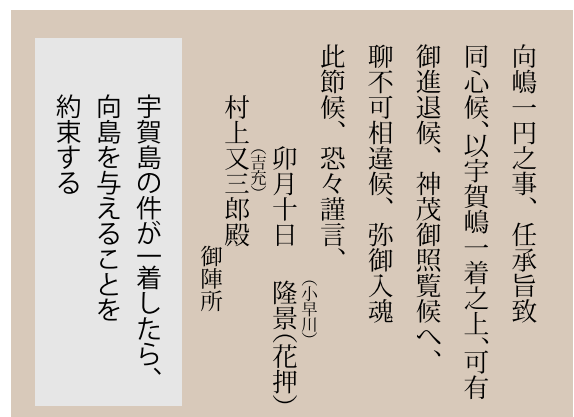


4. 小早川隆景書状

【因島村上家文書】 歴代証書一之巻所収
Letter from Kobayakawa Takakage

弘治元（1555）年の厳島合戦の前に、中国地方の武将である小早川隆景が、因島村上氏全盛期の当主である村上吉充に、向島を領地として与えることを約束した手紙。

In this letter, dated to before the battle of Itsukushima in 1555, Kobayakawa Takakage, a military commander of the Chūgoku region, promises the territory of Mukaijima to Murakami Yoshimitsu.



来島村上海賊

来島村上氏は、来島を本拠としていた村上海賊です。史料上、初めてその存在がうかがえるのは、応永 11 (1404) 年のことで、弓削島荘（現愛媛県上島町）の経営を請け負っています。室町時代の来島村上氏は、「関方」（＝海賊）とも呼ばれ、唐船警固を命じられるなどしていた海上勢力であり、伊予国守護の河野氏とも密接な関係を持っていました。

戦国時代には、村上通康が河野氏の重臣として活躍しますが、その息子通総は羽柴秀吉（のちの豊臣秀吉）の勧誘を受けて河野氏から離反します。羽柴秀吉に味方した通総は大名となり、船手衆として小田原合戦や文禄・慶長の役などでは海上で活動しましたが、慶長の役のときに起きた鳴梁海戦で戦死してしまいます。

通総の跡を継いだ息子康親は、関ヶ原の戦いで西軍についたため、豊後国森（現大分県玖珠郡玖珠町）に転封されますが、「久留島」と姓を改めた来島村上氏は、大名として幕末まで森を治めました。

The Kurushima Murakami family branch, based on Kurushima Island, was one of the Murakami *Kaizoku* families. They first appear in the historical record in 1404 when they began to administer the *shōen*, or manor, on the island of Yuge (currently Kamijima-cho, Ehime Prefecture). In the Muromachi period, the Kurushima Murakami branch was called "Sekigata.", They were seafarers who were in charge of being on alert for Chinese ships. They were closely related to the Kōno clan, feudal lord of Iyo Province.

In the Warring States period, Murakami Michiyasu played an active role as an important retainer of the Kōno clan. His son Michifusa, however, broke from Kōno clan and joined forces with Hashiba Hideyoshi (later Toyotomi Hideyoshi). Hashiba Hideyoshi made his supporter Michifusa a daimyō, and he later took part in the Odawara Campaign as part of the strong of the military force of the sea. Afterwards, he died during the invasion of Korea that Hideyoshi instigated in 1592.

The son of Michifusa, Yasuchika, participated in the Battle of Sekigahara. He was defeated by the West army and was subsequently, transferred to a place called Mori, now in Ōita prefecture. He changed his family name to 'Kurushima' and his family ruled there as a feudal lord until the end of Edo period.



来島城跡 The ruins of Kurushima Castle, Imabari City





5. 村上通康肖像画

Portrait of Murakami Michiyasu

来島村上海賊の全盛期の武将。伊予の守護、河野氏の重臣として、河野通直に仕え、権力の中枢を担う存在となった。安楽寺蔵

He served as the head of the Kurushima Murakami Kaizoku during its prime. Based in the island of Kurushima and the surrounding area, they worked for Kōno clan as an important retainer along with Noshima Murakami Kaizoku.



6. 村上通総肖像画

Portrait of Murakami Michifusa

永禄 10 (1567) 年、父通康の死によって家督を相続。やがて、兄の得居通幸とともに、1580 年頃に河野方を離れ、信長方へ奔り、その後秀吉の船手衆になる。安楽寺蔵

He was the son of Murakami Michiyasu. He broke off from the Kōno clan around 1580. He became an ally of Ōda Nobunaga and Hashiba Hideyoshi, eventually opposing the Kōno and Mōri clans.



7. 来島康親肖像画

Portrait of Kurushima Yasuchika

通総の息子。父が秀吉の朝鮮出兵で戦死をしたため、若くして戦場へ。1600 年の関ヶ原の戦いのち、現在の大分県玖珠町の「森」で、大名となります。「村上」の姓を「来島」に変えた。

He was the son of Michifusa. Because of his father's death during the invasion of Korea, he was forced to participate in battle at a young age. After the Battle of Sekigahara, he became a feudal lord in 'Mori', (present-day Kusumachi, Ōita Prefecture), and changed his family name from Murakami to Kurushima.



8. 秀吉から拝領したと伝わる真足下着

Kimono bestowed by Hideyoshi to be worn under armor

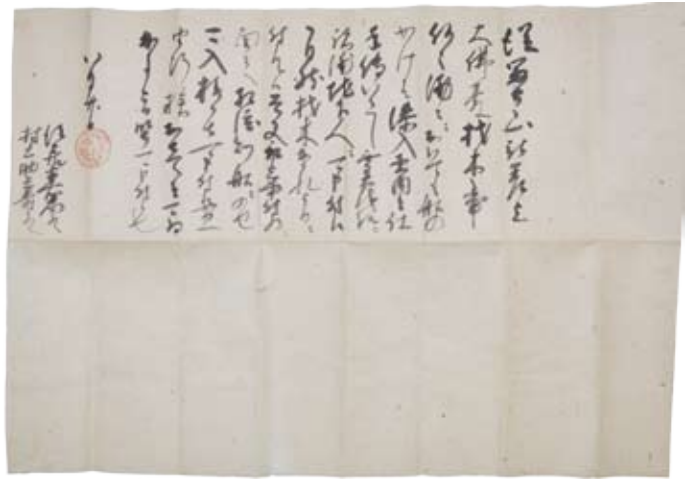
大分県玖珠町の末廣神社 (すえひろじんじゃ) には、秀吉の朝鮮出兵である文禄・慶長の役 (壬辰・丁酉倭乱) の際に、秀吉から来島村上氏に贈られたとされる着物が伝わる。久留島家文書には、帷子 (ひとえの着物) や道服をもらったと言う記録ものこり、このひとつかもしれない。末廣神社蔵

This is a kimono that Hideyoshi presented to Kurushima Murakami family, owned by the Suehiro Shrine in Kusumachi, Ōita Prefecture.

久留島家文書 個人蔵

来島村上海賊の由緒を示す、16世紀以降の記録が今に伝わっている。とくに、豊臣秀吉、秀頼や徳川家康など、時の天下人からの書状など貴重な資料が多く残っている。

These documents preserve the history of the Kurushima Murakami Kaizoku from the sixteenth century. They include many valuable letters from Toyotomi Hideyoshi, Toyotomi Hideyori, and Tokugawa Ieyasu.



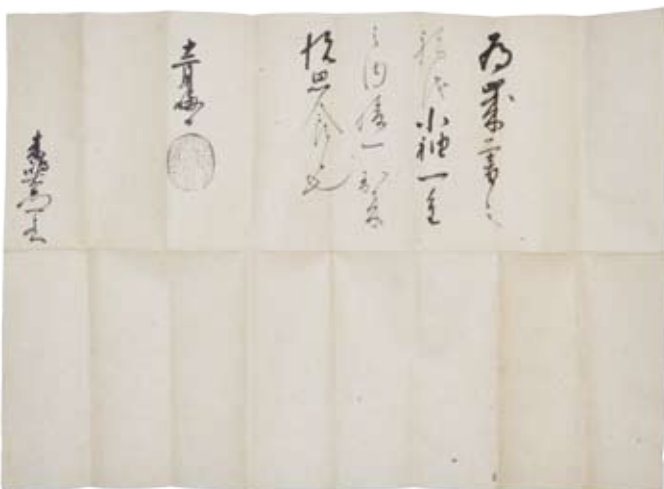
9. 豊臣秀吉朱印状 【久留島家文書】
Letter from Toyotomi Hideyoshi



10. 豊臣秀次朱印状 【久留島家文書】
Letter from Toyotomi Hidetsugu



11. 豊臣秀頼黒印状 【久留島家文書】
Letter from Toyotomi Hideyori



12. 徳川家康黒印状 【久留島家文書】
Letter from Tokugawa Ieyasu

9. 豊臣秀吉朱印状 【久留島家文書】

Letter from Toyotomi Hideyoshi

天正 17 (1585) 年、秀吉が徳川家康に命じて京都方広寺の大仏殿の棟材を富士山麓から運ぶ際に、その輸送船の警固などを命じた書状。この頃には、通幸・通総兄弟は、豊臣大名として秀吉の命を受けて活動するようになった。個人蔵

This is a letter from Hideyoshi to the Kurushima Murakami family. Hideyoshi ordered them to protect the ships that would carry lumber from foot of Mt. Fuji, at the time of the construction of the great Buddha Hall at Hōkōji in Kyoto.

從富士山被差上
大仏殿材木之事、
何々浦々においても船の
かけ候て、湊入案内を仕、
手伝いたし、無異議様ニ、
諸浦地下人ニ可申付候、
自然材木なかれよるニ
付てハ、是又取上、書付の
面々へ相渡、則船ニのせ、
可入精候由、可申付候、万一
油断族於在之者、可為
曲事旨、堅可申付候也、
八月廿日 (朱印)
得居半右衛門とのへ
村上助兵衛尉(とのへ)

10. 豊臣秀次朱印状 【久留島家文書】

Letter from Toyotomi Hidetsugu

1593 (文禄 2) 年、村上通総は豊臣政権の船手衆として、文禄の役に参戦した。この朱印状は、当時閑白であった豊臣秀次から村上通総に宛てられたもので、長期にわたる遠征の労が労われている。個人蔵

Toyotomi Hidetsugu wrote a letter of appreciation to Murakami Michifusa, who fought in the Korean invasion. Hidetsugu, son of Hideyoshi's elder sister, succeeded Hideyoshi but relinquished his position and gave it to Hideyori on his birth.

雖無差事、為
見廻被遣使者候
寔遠国長々
在陣苦勞、殊
方々相動、昼
夜之氣遣不被
置是非次第候、
其表之様子、具
可申越候、尚々
……………(紙折目)……………
可被仰遣候也、
五月廿六日 (朱印)
村上助兵衛とのへ

遠国(朝鮮)に長期の在陣で苦
勞様です。そちらの様子につい
て、詳しく連絡を下さい。

11. 豊臣秀頼黒印状 【久留島家文書】

Letter from Toyotomi Hideyori

年未詳。この黒印状は、来島康親から豊臣秀頼に歳暮として贈られた呉服が到着したことが記されている。豊臣秀頼の黒印が押されている。個人蔵

Hideyori, successor of Toyotomi Hideyoshi wrote a thank-you note for a year-end gift given by Kurushima Yasuchika.

為歳暮祝
儀、呉服一重
到来、悦入候、
尚片桐市正
可申候、謹言、
極月六日 (黒印)
来嶋右衛門市とのへ

お歳暮として呉服一重が到着
しましたことは、悦ばしいこ
とです。

為歳暮之
祝儀、小袖一重
之内綾一到来、
悦思食候也、
十二月晦日 (黒印)
来嶋右衛門一とのへ

お歳暮として呉服一重が到着
しましたことは、悦ばしいこ
とです。

12. 徳川家康黒印状 【久留島家文書】

Letter from Tokugawa Ieyasu

年未詳。この黒印状は、来島康親から徳川家康に歳暮として贈られた呉服が到着したことが記されている。徳川家康の黒印が押されている。

Tokugawa Ieyasu, who established the Edo Bakufu, wrote a thank you note for a year end gift given by Kurushima Yasuchika.

能島村上海賊

能島村上氏は、能島およびその周辺に本拠をおいた村上海賊です。史料上、初めて姿を現すのは貞和 5 (1349) 年。伊予国弓削島の莊園領主である京都東寺の使節を警固する海賊として登場します。

戦国時代になると、大友氏、毛利氏、三好氏、河野氏ら周辺の戦国大名と、時に友好関係、時に敵対・緊張関係となりながら、独自の姿勢を貫きました。戦時には関船や小早船を巧みに操り、ほうろく火矢など火薬を用いた戦闘を得意とし、天正 4 (1576) 年の第一次木津川口合戦では、毛利氏の軍勢の一翼として、泉州海賊の眞鍋七五三兵衛ら織田信長の海の勢力を撃破しました。一方、平時には瀬戸内海の水先案内、海上警固、海上運輸など、海の安全や交易・流通を担う重要な役割を果たしました。

豊臣秀吉の時代になると、能島村上氏の生業である通行料の徴収が厳しい取締の対象となり、天正 16 (1588) 年の「海賊禁止令」など度重なる弾圧により、瀬戸内海は村上海賊たちの自由な海ではなくなっていきました。その結果、来島村上氏と同様に、天下人の一勢力として、行動することになります。

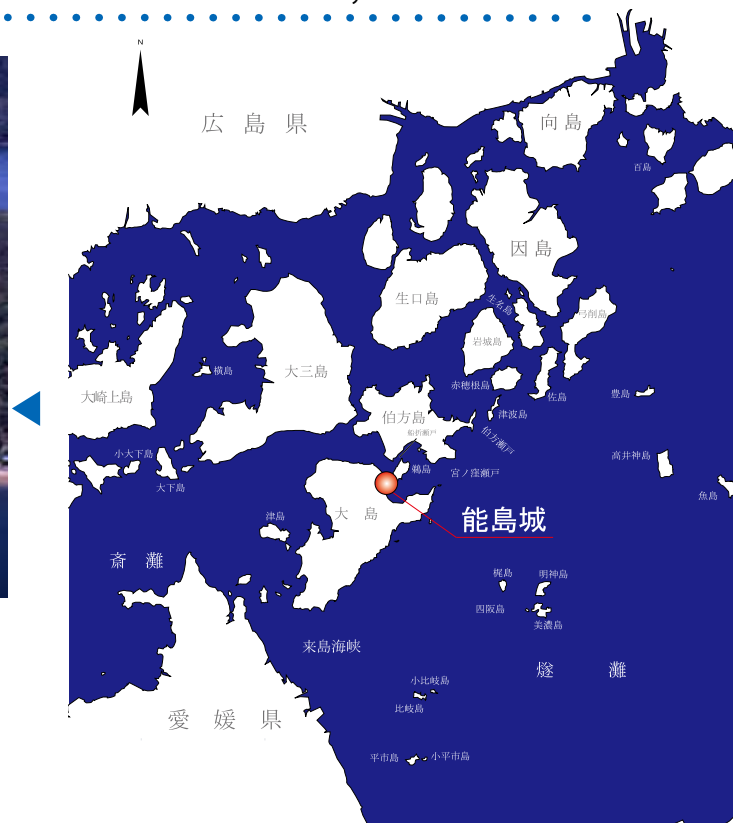
The Noshima Murakami branch established their base in Noshima Island and the surrounding area. They first appeared in the historical record as the rulers of the island of Yuge in Iyo Province, as well as watchment of the ships owned by Tōji Temple in Kyoto.

In the Warring States Period, the Noshima Murakami family branch acted independently. They alternately had either harmonious or hostile relationships with the nearby feudal lords, including the Ōtomo, Mōri, Miyoshi, and Kōno clans. In wartime, they skillfully steered both seki-bune and kobaya-bune (middle- and small-sized ships respectively). They were also talented at using fire laden arrows and gunpowder. In 1576 at the first battle of Kizugawaguchi, the Noshima Murakami participated as a part of the Mōri clan's army to defeat Oda Nobunaga and Manabe Shimenohyōe, the *kaizoku* of Osaka Bay. In times of peace, they played an important role in keeping the sea safe, as well as in trading, circulating goods, guiding ships, and maintaining the overall order of sea transportation.

When Toyotomi Hideyoshi came to rule, he prohibited the Noshima Murakami from engaging in their principal activity, which was charging transport dues. In 1588, Hideyoshi issued a series of edicts to gain greater control over the Noshima *kaizoku*. This resulted in their inability to operate freely in the Seto Inland Sea. They subsequently became a part of Hideyoshi Toyotomi's army, just as the Kurushima Murakami branch had already done.



能島城跡 The ruins of Noshima Castle, Imabari City





しょうじょうじん ぼ おり
13. 猩々陣羽織

Japanese coat (haori) over a suit of armor

村上武吉と息子の景親が着用したと伝わる。素材はラシャと考えられている。猩々という架空の動物の血で染められて魔除けの力があるなどと言われている。今治市村上水軍博物館蔵

This garment was worn by the head of the Noshima Murakami kaizoku. The red color was said to be dyed with the blood of a mythological orangutan-like creature called a "shōjō," and it was said to be a good-luck charm that warded off evil spirits.

いろ いろおどしはら まき
14. 色々威腹巻

Suit of armor owned by the Noshima Murakami Kaizoku

室町時代後期から末期の作。腹巻とは背中を割って体を入れるタイプの胴のことで、小札という革や鉄の板に、紅・白・紫の「緒」(紐)を通し、作り上げている。色々な「緒を通し」た腹巻と言う鎧なので、「色々威(おどし)腹巻」と言う。

今治市村上水軍博物館蔵

This armor was worn by the head of the Noshima Murakami kaizoku. It is made of lacquered pieces of iron and leather, which are connected with purple and red cords. The original cost of this armor was said to be

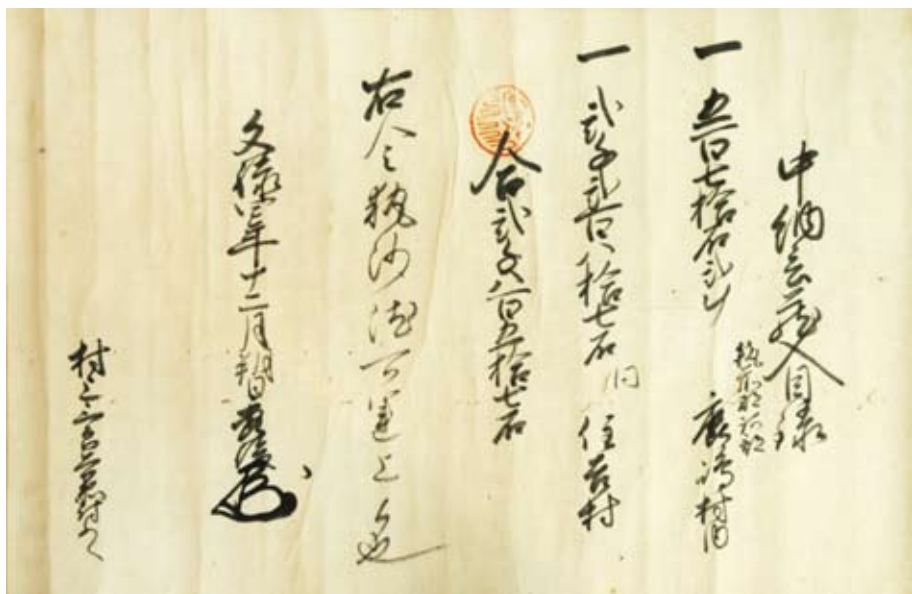




知行方目録
 一、百九拾三石壹斗貳升 筑後国三井郡にし原村
 一、八拾壹石 同 二、こか村
 一、七百五拾四石七升 同 三、もり村
 一、千四百拾九石九斗八升 筑後国三原郡草場村
 一、三百三拾式石六斗六升 同 四、さわ村
 一、貳百八拾七石八斗壹升 同 五、ひかた村之内
 (朱印) 合三千二百石
 右、今度以検地之上、改之令扶助畢、全可領知候也。
 文禄四年十二月朔日秀俊(花押)
 村上三郎兵衛殿

右に書き記した土地について、検地をしたうえで、改めて与えます。

15. 知行方目録 【今治市村上水軍博物館保管村上家文書】
 Letter from Kobayakawa Hideaki



中納言蔵入目録
 一、五百七拾石貳斗 筑前那珂郡鹿島村内
 一、貳千貳百八拾七石 同 二、住吉村
 (朱印) 合貳千八百五拾七石
 右、令執沙汰可運上候也。
 文禄四年十二月朔日秀俊(花押)
 村上三郎兵衛殿

右に書き記した土地について、きちんと年貢を(小早川家に)納入しなさい。

16. 中納言蔵入目録 【今治市村上水軍博物館保管村上家文書】
 Letter from Kobayakawa Hideaki

文禄4(1595)年、小早川氏の領国では一斉に検地が行われた。その検地で設定された石高に基づき、小早川隆景から小早川家の家督を継承した養子の秀俊(後の秀秋)は、12月30日に家臣に対して領地を給付する。「知行方目録」は、小早川秀俊が村上景親に領地を給付した書状である。「中納言蔵入目録」は、秀俊が景親に自らの領地を預けたものである。豊臣秀吉の朱印が添えられており、領地を給付する主体は豊臣秀吉であったと見なすことができる。このとき給付された石高に基づき、慶長の役での負担が決められた。個人蔵・今治市村上水軍博物館寄託

This letter was written by Kobayakawa Hideaki. It carries the impressed red seal of the powerful Toyotomi Hideyoshi, indicating that the letter conveyed his wishes. It says that Murakami Kagechika from Noshima Murakami kaizoku would be given control of northern Kyushu for his services.

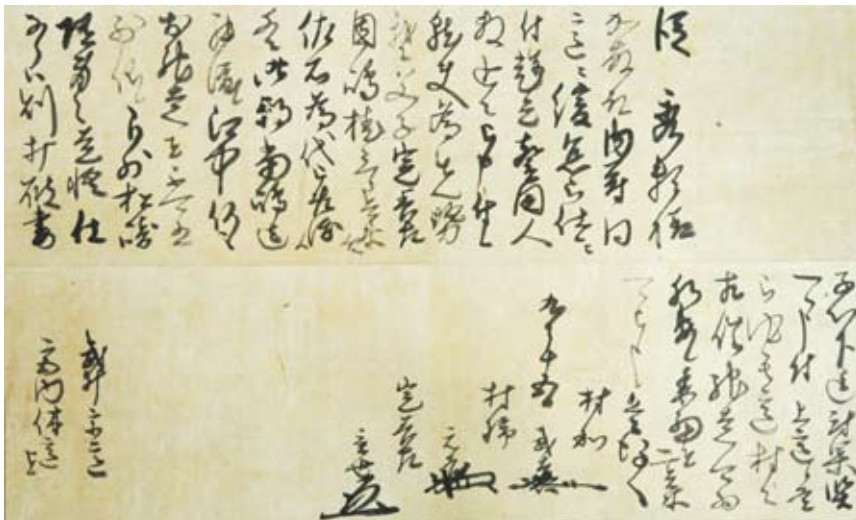
17. 村上景親肖像画

Portrait of Murakami Kagechika

能島村上氏全盛期の当主である村上武吉の次男景親の肖像画。関ヶ原合戦での活躍により、有力な大名から誘いを受けるも、これを固辞し、毛利輝元に忠誠を誓った。

個人・今治市村上水軍博物館蔵

Murakami Kagechika was a military commander from the Noshima Murakami kaizoku branch. He was the second son of Murakami Takeyoshi who was called "the greatest kaizoku in Japan."



從 秀頼様 / 加藤殿内府同 / 意 二 緩急被
（因松崎）
 仕候 / 付、輝元警固人、数追々被申付
 候 / 就夫為先勢 / 我父于完善左 / 因鶴
 桂三郎兵衛殿 / 佐石為代被差渡候 / 条
 昨朝霜崎 / 罷渡候、郷中何も / 於馳走
 者、不可有 / 別儀候、自然松崎 / 隨身之
 覚悟仕 / ならハ、則打破妻 /
 ……（折目）…
 子以下討果堅 / 可申付、上意候条 /
 被得其意、村々 / 相催馳走可為 / 肝要候
 委細者、兵衛 / 可被申候、恐々謹言、
 九月十五日
（備長守） 武吉（花押）
（村和守） 村上
（元吉） 元吉（花押）
（完善左） 景世（花押）
 武井宗意
 官内休意
 まいる

豊臣秀頼様に敵対する加藤嘉明ならびに徳川家康を討つべく、我々父子らは毛利輝元から命を受け先遣部隊として渡海し、昨朝興居島へ到着した。万が一松崎方（加藤方）につくならば、ただちに攻撃し、妻子以下まで討ち果たすつもりである。我々の意をくみとり、村々の兵を集めて加勢することが大事である。

18. 村上武吉・村上元吉・宍戸景世連署書状 【今治市指定文化財】

Letter written by the heads of the Noshima Murakami kaizoku, Murakami Takeyoshi and his son Motoyoshi

関ヶ原合戦のさなか、西軍の毛利氏家臣として伊予に渡海してきた武吉・元吉らが、東軍の加藤嘉明と親交のあった武井宗意らにあてて、自軍への参加を要求している。翌日、三津浜に上陸して交戦し、元吉は戦死。元吉が死の前日に発給した最期の書状。今治市村上水軍博物館蔵

These are the letters written by the heads of the Noshima Murakami kaizoku, Murakami Takeyoshi and his son Motoyoshi, during the prime of the Noshima Murakami kaizoku. In 1600, during the Battle of Sekigahara, all the feudal loads in Japan divided themselves into two armies:the East (Tokugawa) and West (Toyotomi). These two sides fought against each other to unify Japan. Motoyoshi supported the West army and wrote letters to the lords of Iyo (present day Ehime prefecture) who sided with the East armies, pressing them to betray Tokugawa and ally with Toyotomi. The day after Motoyoshi wrote his letter, he was killed in a battle at the age of 41.

村上海賊三家のその後

慶長5（1600）年の関ヶ原合戦が終わり、江戸時代になると、豊臣家の大名であった来島村上氏は、豊後森（現大分県玖珠町）という場所に国替えをされながらも、大名に取り立てられました。

来島村上氏は、来島康親の時代に、村上から来島へ姓を改めました。初代藩主の康親は、当初、角牟礼城という山城に住みました。二代目の通春は、さらに「くるしま」の読みはそのままですが、「久留島」と改姓しました。その後、約250年にわたり、この地を治めました。現在の大分県の別府市や日出町の一部も久留島家の所領でしたので、かろうじて海とのつながりは保たれました。

一方、敗戦をした西軍についた、因島・能島村上氏は、現在の山口県に所領を与えられ、毛利氏の家臣団に組み込まれました。両村上氏は、萩藩（毛利藩）の船手組に編成されました。船手組は、現在の山口県の海域で、藩主が江戸に向かう際の御座船の警護や、朝鮮通信使の曳航、漂流船への対処など、海に関する様々な業務を行いました。その活動拠点は、現在の山口県防府市です。そのなかでも能島村上氏は、船手組の頭として、江戸時代の約250年、その役目を務めました。

このように村上海賊の末裔たちはそれぞれの道を歩みますが、幕末まで海と関わり続けるのでした。



19. ホタテ貝兜 因島水軍城蔵
Helmet of armor owned by the Murakami Kaizoku

.....

In 1600, the Battle of Sekigahara ended in what is now Gifu Prefecture. During the battle, Japan was divided into two camps: the Eastern armies and the Western armies. When the battle ended and the Edo period began, the Kurushima Murakami family, who were once daimyō of the Toyotomi family, transferred to Mori in Ōita Prefecture to be feudal lords of the region.

Yasuchika of Kurushima Murakami family changed his family name from Murakami to Kurushima. Yasuchika, lived in the mountain castle called Tsunomure. The second generation of the family headed by Michiharu kept the pronunciation “Kurushima,” but changed the characters of the family name. The family subsequently ruled the territory, including the well-known part of the Beppu hot springs, for about 250 years.

The Noshima and Innoshima Murakami families, were in the defeated with the Western armies. They were given land in current Yamaguchi Prefecture and became retainers of the Mōri clan.

Both of the Murakami families formed a *funategumi*, a group that would guard the ships of the daimyō in present day Yamaguchi when they went to Edo. The *funategumi* also towed ships of Korean delegates, and dealt with drifting ships around the waters of Yamaguchi Prefecture. They were based in Hōfu-shi, Yamaguchi Prefecture. Members from the Noshima Murakami family, in particular served as the heads of the *funategumi* for the duration of the Edo period.

.....

本パンフレット作成にあたり下記の機関、個人の皆様から多大なご指導・ご協力を賜りました。記して感謝の意を表します（敬称略）

安楽寺 今治市国際交流協会 末廣神社
穴井浩紀 久留島通利 久留島通則
西 弘道 村上典史子 村上文朗

村上海賊三家の至宝

